

## 優 秀 賞

### 水問題から救うために

茨城大学教育学部附属中学校

二年 坂 本 一 華

日本に住んでいる私たちは、水を飲んだり、トイレに行ったり、手を洗ったりすることを当たり前のようになっています。私たちは日常で多くの安全な水を使用しているのです。しかし、世界にはまだ安全な水を手に入れない人が六億六千三百万人もいると言われています。（日本ユニセフ協会「どんなに汚くてもこの水を飲むしかない」二〇二四年五月閲覧）SDGsにもあるように、世界の水問題は深刻なことです。私はアフリカでの体験を通してさまざまなことを実感しました。

アフリカのスラム街地域に父の知り合いとみんな車で乗って見に行ったことがあります。そこでは、汚そうな水が溜まっているような場所に大勢の女性

や子供が密集して、とても大きなボトルのようなものに水をいっぱい入れ、家に持ち帰るということを何度もくり返していました。各地からは嫌な匂いがして、布を被せただけのような家には水道やトイレもありませんでした。日本での生活が当たり前だと思っていた私からはとても信じられませんでした。

ユニセフによると、世界では十八億人もの人がまだ自宅の敷地内で水を手に入れることができないのです。（日本ユニセフ協会「水と衛生」二〇二四年五月閲覧）日本では蛇口を捻るだけで水が出るのに、アフリカでは家と水が溜まっている場所を往復しなければなりません。また、水に困る多くの人たちはとても貧しい生活をしていました。それは、きれいな水がなかなか手に入らないからというのも理由なのではないかと思いました。水がないと食料問題や衛生問題や教育問題にもつながり、貧困や病気、戦争などにも発展してしまうのです。水がなければ作物も育たず、衛生ではない水を飲んで病気につながってしまったり、水を汲むのに時間を使ってしまい勉強できる時間がなくなったりするから

です。しかし逆に考えると、水の問題が解決されればこのような問題もなくなるということです。水の問題解決の重要さと、きれいな水が常にあるからこの恵まれた生活だったのだということに気付かされました。

私は、世界のこれらの問題を解決するためにすべきことは二つあると考えています。

一つ目は、日本の技術を技術者などを通して世界に伝えるということです。私の父は、水道管を整えて、敷地内に水を通らせたりする活動を行っていたそうです。結果、生活が少し豊かになったそうです。父のように日本などの世界各国が協力して、各地に水を巡らせる技術を伝え、安全な水の確保が持続可能になるように協力し合うべきです。

二つ目は、水が起こす問題と現状についてもっと多くの人に知ってもらおうということです。今世界には劣悪な水を飲まざるを得ない国が多く存在することを多くの人に知ってもらって、すべての人がこの問題を真剣に受け止めるべきだと思っています。私は、身の回りの人に話すということからも、この水

の問題の重要さを伝えることができ、世界の大きな水問題の解決の鍵となるのではないかと思います。

この世界には日本のような水の当たり前が当たり前ではない国があるという現実について、日本に住む私たちは、水に困ることがないためこれを実感することは少ないと思います。しかし、水による問題は深刻なので、誰もが真剣に考える必要があるのではないのでしょうか。世界全体が真剣に考えて協力をして、水に困ることのない、誰もが過ごしやすい世界を実現させたいです。